

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298600063		
法人名	社会福祉法人 つばさ		
事業所名	共生ホーム たけんこ グループホーム		
所在地	〒298-0025 千葉県いすみ市山田5897番地		
自己評価作成日	令和4年11月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	市川市富浜3-8-8
訪問調査日	令和4年11月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で洗濯物量みや掃除等の家事を一緒に行う事で出来るだけ自立した生活が出来るように支援しています
 自然環境豊かな場所である為、現在も日課に散歩を取り入れ季節の移ろいを感じられるよう努めています
 コロナ禍である為現在も行事等も縮小して行っていますが、自己選択・決定が出来るようドリンクバーやデザートバイキングを取り入れる等、工夫にも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「たけんこグループホーム」は見晴らしの良い丘の上に建っており、のどかな自然に囲まれた環境の中にある。同法人のデイサービスが併設されていると共に、障害者支援施設が近隣にあり、日常的な交流や合同行事の開催を通して、入居者の生活活性化に繋げている。地域の方々とは、挨拶、施設行事の招致、ボランティアの受け入れ等を通して、良好な関係を築いている。また、地域のキッチンカーを使用したお弁当づくりや訪問理美容による散髪を実施しており、地域の社会資源も有効に活用している。現在コロナ禍の為、外出会の機会が減少している中、屋台、喫茶店、洋食メニューバイキング、ドリンクバー、デザートバイキング等の工夫を凝らした活動により、外出気分が味わえるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員採用時に法人理念・事業所の基本方針の説明している。個々のロッカーに法人理念・GH基本方針を貼付しています	「その人らしく、明るく、健やかに、共に生きる社会を目指す」という施設理念を掲げている。理念は、事業所内や更衣室ロッカーに掲示し、理念に沿ったケアの実践に努めている。また、会議を通して、理念の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件上なかなか地域住民との交流は難しいがコロナ前は地域のボランティアの方々と行事等で交流がありました。今年度は9月の行事の時にボランティアの方に訪問していただいています	日頃から、挨拶、施設行事の招致、ボランティアの受け入れ等を通して、地域との繋がりを大切にしている。また、同法人のデイサービスや障害者支援施設との交流も行っている。その他、地域のキッチンカーを活用し、施設の敷地内でお弁当づくり等も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で実施している認知症サポーター研修に参加したり、チームオレンジの活動に参加することで支援の方法を人々と共に学ぶことに努めています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの内容についての取り組み状況についての報告は行っていて、コロナ禍という事で書面会議となっているがご意見等いただきサービス向上に繋げています	運営推進会議は、市役所職員・地域包括支援センター職員・民生委員・地域住民・入居者・家族・職員等が出席し、年6回開催している。会議では施設の活動報告や意見・情報交換を行い、挙げた意見をサービスの質の向上に活かしている。現在、新型コロナウイルス感染対策の為、会議は構成員と書面による意見交換を行い、議事録を配布する形で実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの情報についてはメールや電話でお知らせがあり、市職員からの意見や新しい情報をいただき取り組んでいます	日頃から業務における相談や報告、運営推進会議等を通して、市と連携を図っている。現在コロナ禍の為、市とは電話やメールを通して連携を図っている。また、市主催の研修はオンラインで実施されており、サービスの質の向上に活かされている。	

【千葉県】共生ホームたけんこグループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時、身体拘束の指針を必ず閲覧してもらっている。法人内で行っている身体拘束委員会へ参加し他事業所とも意見交換を行っています。玄関の施錠は現在も行っているが検討は定期的に行っています。	身体拘束排除における指針を整備していると共に、定期的に委員会を開催している。また、身体拘束排除におけるマニュアルの整備や内部研修を通して、職員全員で共通理解を図っており、身体拘束の無い支援の実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期に行っている委員会等で学ぶ機会があり、虐待について職員間での情報共有も図られている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	委員会の設置はないが外部研修等で学んでいます。その後会議や時間を設け伝達研修も行っています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に実施しています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪した際に意見や要望を聞き日々のケアに繋げています。HPIに情報を公開。毎月1回広報誌を作成し家族に郵送しています	家族からは、来訪時や電話連絡・運営推進会議等を通して、意見や要望等を確認している。意見や要望については、会議や申し送り等で検討し、適切な支援や運営につなげている。毎月、施設広報誌の「たけんこだより」を発行していると共に、年1回、法人広報誌の「あおぞら」を発行しており、入居者の活動や生活状況を写真を含めて伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議等において話合える環境にあり、参加できなかった職員については議事録で伝達しています。職員の提案や要望は管理者の検討の上適切に反映されています	毎月、法人全体の職員会議、施設でのスタッフ会議・ケア会議・給食会議を開催しており、職員からの意見や提案等を確認し、運営に反映させている。年2回個人面談を実施しており、職員一人ひとりの思いを確認している。また、個々に目標設定と評価を行い、人材育成を図っている。	

【千葉県】共生ホームたけんこグループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	OJTを取り入れ職員の業務への取り組みを把握している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人にあったサポートがされている。外部研修や職場内研修への参加の機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いすみ市連絡協議会等、近隣の施設が参加する研修に参加し他施設と情報交換を行っている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間をともにしながら少しずつ信頼関係の構築に努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談の際にご家族の意見を聞き、安心できるようにご家族との関係作りにも努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に家族と話し合いケアプランを作成しながら実施しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中でできる限りその人らしい生活が出来るように関わりを持ち信頼関係の構築に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族連絡を行い、面会や外出の支援を実施しています。		

【千葉県】共生ホームたけんこグループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍という事もあり、困難な事が多いが手紙のやり取りを行う等支援を行っています。	家族との面会や外出、外泊を支援しており、相互の馴染みの関係を大切にしている。また、希望に応じて、個別または少人数の外出を支援しており、馴染みの場所での楽しみを提供している。。その他、理美容については、2カ月に1回訪問で実施しているが、希望に応じて地域の馴染みのお店も利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の活動の中で他利用者ともコミュニケーションが取れるよう職員が間に入り利用者同士関係が築けるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転所された時等あ近況を確認し支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの話を聞き、希望や意向の把握に努めています。	入居前に本人・家族から意向・生活歴・身体状況を確認していると共に、医療機関や他のサービス事業所から情報収集し、適切に情報を把握している。また、支援計画の更新時にも、意向や情報等を再確認している。情報については、会議や連絡ノートを活用し、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族やケアマネージャー等から生活歴等を聞き、出来るだけ本人のペースで過ごせるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の個々の状態を把握し、自立支援に努めています。		

【千葉県】共生ホームたけんこグループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のケア会議を実施しています。毎日の申し送りの際に情報共有し、ケアプランの見直しに繋がっています。家族からの情報を元にケア会議に向け担当職員を中心に意見を求め作成しています。	会議で支援内容を検討し、介護計画を作成している。定期的に介護計画の目標達成状況を確認しており、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。また、日頃から連絡ノートや会議等を活用し、情報や状況の確認や共有を図っており、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌等から日々のケアの見直しを行い情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院や薬剤師の導入を実施し安心出来るよう支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為不足している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は家族と連絡を取り相談し適切な医療を受けられるようにしています。家族受診の際は受診時連絡票を用いて日々の体調を記録しDrに伝えています。	家族と協力しながら希望のかかりつけ医への受診を支援しており、適切に健康管理を行っている。受診の際は、医療面に関する情報をまとめた記録を連絡票と共に持参しており、医療機関との適切な連携や情報交換に活用している。看護師の職員が配置されており、日頃の健康管理や医療機関との連携を通して、適切な看護支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と相談し医療機関へ繋がっています。		

【千葉県】共生ホームたけんこグループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーの記入や病院関係者と連絡を密に取り関係作りに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期にできる事を伝え理解していただいています。介護度が高くなっている利用者のご家族と話し合いを行い他施設への転所のサポートを行っています。	契約時に終末期・重度化に関する施設方針を説明し、同意を得ている。必要に応じて、医師・家族と話し合いを行い、施設として出来る限りの支援が行えるよう体制を整えている。また、他のサービスや医療機関への切り替えが必要な場合には、スムーズに行えるよう、関係機関からの協力体制も得られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設に設置しているAEDの使用方法も含め救命救急訓練を適宜実施しています。夜間帯での問題発生時の緊急連絡先、対応手順等の把握に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、災害時の訓練を行っています。施設内の防災備品の点検等を定期的に行っています。	スプリンクラー・火災報知機・自動通報装置等の消防設備を設置していると共に、年3回の消防避難訓練を実施している。訓練では、火災想定や台風想定訓練・消火器訓練・通報訓練等を行い、災害時の対応方法を身に付けている。また、同法人の障害者支援施設との合同訓練も実施しており、協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新たに採用した職員に対して会議等で指導しています。認知症介護基礎研修の受講を促しています。	全職員に法人の心得を配布し、入居者の人格尊重とプライバシー保護について周知している。接遇やプライバシー保護については、内部研修や会議で指導している、また、言葉使いについては、全職員でセルフチェックを実施しており、入居者の尊厳を大切にしたい支援に取り組んでいる。	

【千葉県】共生ホームたけんこグループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の支援の為、ドリンクバーやデザートバイキングを実施しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールにこだわらず、本人の希望に沿ったケアが出来るよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った装いが出来るよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や誕生日にはリクエストを頂き取り入れています。利用者によって職員以外が調理する事に対して抵抗をもたれる利用者もあり、職員主体となっていますが畑で採れた野菜等の下処理等をお願いしています。	入居者の希望や身体状況に応じて、食事の片付けを職員と共同で行っている。昼食は近隣の障害者支援施設から提供されているが、それ以外は施設内で調理しており、季節の食材や入居者の嗜好に配慮した食事を提供している。誕生会・敬老会・クリスマス会等の行事食や手作りおやつを提供しており、食に対する楽しみを支援している。新年会においては、職員がおせち料理を手作りで提供している。その他、ラーメンをスープ・チャーシューを一から手作りした上、屋台風にして提供する取り組みを行っている。また、ドリンクバーやデザートバイキング等の提供スタイルにも工夫を凝らしており、外食機会が減少している分、施設内で外食気分が味わえるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護日誌等から一人一人の食事摂取量や水分摂取量を確認し、摂取量の減少が見られた際は摂取量向上に向け話し合いを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、見守り声掛け介助を行っています。		

【千葉県】共生ホームたけんこグループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護日誌等から個々の排泄パターンを把握し服薬管理の他、運動量や水分量にも目を向けケアを行っています。	入居者一人ひとりの排泄状況や水分及び食事状況を管理し、適切な排泄支援につなげている。必要に応じて医師・看護師と相談していると共に、体操の実施やヤクルトの提供により、排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヤクルト、牛乳の提供を行い便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決めています、その状況に応じて変更し入浴しています。又、ゆず湯やしょうぶ湯といった季節ならではの入浴も取り入れています。	入居者の体調や希望に配慮し、柔軟に対応しながら適切な入浴の機会を設けている。必要に応じて、シャワー浴・清拭・部分浴を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。また、数種類の入浴剤の使用や菖蒲湯・柚子湯の実施により、入浴が楽しみになるような取り組みも行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の意志を尊重しています。夜間あまり休めていない利用者に対しては、声掛けし休んで頂く等しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理については2名で確認しています。薬の目的や副作用がすぐわかるよう薬情報は常に閲覧できるようにしています。薬の変更があった際は職員に周知し状況の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を把握し、その人らしい生活が出来よう、生活歴等の情報や日々の会話の中から趣味や嗜好品を探り日々の生活や行事の企画等に取り入れています。		

【千葉県】共生ホームたけんこグループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、不十分と感じますが、天気の良い日は職員付添で外を散歩しています。その際は1対1で散歩を行い一人の利用者と密に関われるようにしています。	日頃から散歩やドライブ、敷地内での活動等を通して、戸外での楽しみを支援している。現在コロナ禍の為、外出会の機会が減少している中、キッチンカーを活用したお弁当作りや屋台、喫茶店、洋食メニューバイキング、ドリンクバー、デザートバイキング等の工夫を凝らした活動により、外出気分が味わえるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設管理としています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方は使用して頂いてます。手紙のやり取りについても希望する方は行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内共有スペースには季節のうつろいを感じやすくする為にシーズンに合わせた壁画等を掲示しています。又、ウッドデッキでの野菜作りをしています。	施設内は、バリアフリー環境となっており、入居者の安全面に配慮したつくりとなっている。共有スペースには椅子・テーブル・ソファが設置されており、自由にくつろげる環境作りがなされている。両ユニット間には多目的ホールがあり、ボランティアの発表や行事開催時に活用されており、楽しみの提供の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファを用意し自由に座って他利用者と会話出来るようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にご家族の写真やアルバム、楽器、編み物等なじみの物を置き、居室でTVを見たり、読書をしたり、自宅での延長となるよう支援しています。	馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、入居者が居心地良く生活できる様配慮している。布団を敷くことやテレビの設置等も可能で、入居者の生活歴・身体状況に合わせた居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり自己決定できるように働きかけています。		